

市政1期目の取り組み

2021 >>> 2025

目 次

- 01 対話と共感
- 02 トップセールス
- 03 任期1期目の取組
- 04 今後の課題

01 対話と共感

視点1:若者・女性

01 八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議

●若者・女性目線のまちづくり

若者・女性の視点を活かした魅力あるまちづくりを推進するため、「八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議」を設置。ネットワーク会議からの提言を受け、これまでに全49事業を事業化。

主な事業

(一部抜粋)

- ・八戸市こどもモニター制度
- ・八戸圏域ファームステイ事業
- ・マチナカまるっと一日体験事業
- ・赤ちゃんお出かけ応援事業(R5~)
- ・こども医療費無償化事業(R6~)
- ・超帰省応援事業(R7~)など

視点2:市民感覚

02 市長との公民館サロン

●市政に市民感覚を

地域住民と気軽な雰囲気で対話し、地域の現状や課題について相互理解を深め、課題解決や地域振興の方策を共に考え、市民目線に立った行政運営を実践。

- ① 現地視察②意見交換③施策に反映

視点3:民間企業等

03 経済交流サロン

●民間企業×市長

民間企業と対話の機会を設けることにより、市と経済界との顔の見える関係を構築。

- ・民間の感覚を市政に導入
- ・課題に対する互いの視点を共有

04 八戸商工会議所青年部からの提言

●青年部×行政

八戸商工会議所青年部として初めてとなる市への政策提言を受理、市職員が策定段階から参画し実現性の高い提言に。

- ・外国人施策の充実
- ・民間企業との交流機会の創出 等

05 市長室ダイアログ

●市長×市職員

市長と市職員との直接対話により、市の課題や将来像に関する共通認識を持つことで、市役所内部の活性化を図る。

- ・市民サービスの向上
- ・「カエルプロジェクト」による業務改善(変える×帰るで、職場改善)
- ・新規事業の開始

ex.) Hachinohe X-TechInnovation

視点 4:多様な主体

06 八戸産学官連携推進事業

- 若者の流出抑制
- 人口減少による環境変化

「産学官の連携」による若者の地元定着・地域活性化を目指す。

- ・八戸地域学
- ・長期インターンシップの実施
⇒コーディネーターの伴走支援によるインターンシップに
係る企業負担を軽減

07 八戸圏域連携中枢都市圏(八戸都市圏スクラム8)

- 自立した八戸圏域

近隣の市町村と連携し、活力ある社会経済を維持

- ・ドクターカーの広域運営
- ・エイトベースの運営
- ・文化財バトルカードの開発
- ・八戸圏域地域連携 IC カード「ハチカ」の導入
⇒乗降時間の短縮と人件費やコストの削減

02 トップセールス

海から拓けたまち八戸

01 八戸セミナーの開催

●産業の振興

東京・名古屋において立地環境や産業施策、八戸港の魅力等の PR を実施し、企業誘致を促進することによる当市の産業振興を図る。

02 ポートセールスの実施

●八戸港の優位性

国内外でのポートセールスにより、新規航路開設・既存航路のサービスの維持・拡充を推進。

株日本農業が八戸港を利用した青森県産りんごの船舶輸送の稼働を新たに開始。

多様な資源を有するまち八戸

03 漁船誘致の推進

●水産業の再興

官民一体となった漁船誘致活動を行い、当市の基幹産業の一つである水産業の振興を図る。

04 観光資源の PR

●ハマる、ハチノヘ。

当市が誇る食・文化・自然などの魅力的な観光資源の PR や資源を活かすための要望活動の実施。

・持続可能な観光の確立

・地域経済の活性化を推進

05 大型 MICE の誘致

●認知度の向上 ●経済波及効果の創出

令和 5 年 10 月開催の全国都市問題会議の誘致により、「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」をテーマに、八戸の取組や八戸ならではのおもてなしを全国の自治体関係者約 1800 人に広くアピール。

06 スケート国際大会の誘致

●氷都八戸

氷都八戸を象徴する長根屋内スケート場において、日本初開催の大会を含む、3つの国際大会を開催

03 任期1期目の取り組み

01:新型コロナウイルスの克服

医療提供体制の充実

01 計画等の策定

- 新型コロナウイルス感染症危機管理マニュアルの策定
 - ・陽性者の急激な増加への対応をマニュアル化
- 八戸市感染症予防計画の策定
 - ・次なる感染症の発生に備え、事前対応型行政の構築

02 医療提供体制等の充実

- 医療機関等との連携による体制強化
 - ・検査数…市内医療機関約 93,100 件 民間検査機関約 14,500 件
- クラスター対策が必要な施設等への対策
 - ・検査キット配布数… PCR 検査キット 約 20,600 個
抗原検査キット 約 119,300 個

03 市民へのフォローアップ・フレイル対策

- R4.8より介護予防センター事業を連携中枢事業として運用開始し、広域的な対策を実施
- フレイル予防のため高齢者バス特別乗車証を無料交付
 - ・交付者数 22,640 人(R5.4～R6.3)

事業者支援 消費者需要喚起

04 商業団体等への支援

- 商業団体等が市民の消費喚起を促進する事業に対する経費補助を実施
 - ・交付実績…約 3 億 6,000 万円/78 件(R4. R5)

●イベント等の情報発信の強化

05 プレミアム商品券・食事券による需要喚起

●コロナ禍等による経営が悪化する事業者及び消費者の負担軽減を図るためプレミアムクーポンを発行

【プレミアム商品券】

発行総額…28億2,951万円

【プレミアム食事券】

発行総額…5億2,000万円

交付人数…19,591人

06 観光おもてなしクーポンによる需要喚起

●観光関連事業者支援のため、観光客等を対象としたクーポンを発行

・クーポン発行枚数…29,961枚

・クーポン換金額…28,391,000円

02 地域経済の活性化

中小企業の振興

01 八戸市中小企業・小規模企業振興ビジョン策定

●地域経済の再生・回復を図るための各種取組を推進していくための道筋を示す

02 八戸市中小企業・小規模企業振興基本条例制定

●条例に基づき「八戸市中小企業・小規模企業振興会議」を設置し、会議からの意見による新規事業や既存事業の見直しを実施

【新規事業(一部)】

・高校生による地元企業魅力発見体験事業

・新規会社設立補助事業

・はちのへ創業・事業承継サポートセンター(8サポ)の開設

03 八戸市中小企業振興に基づく助成制度の拡充

- 企業の経営基盤強化の促進、人材の確保、育成を支援
- ・従来の助成制度に加え、新たに「働きやすい職場環境整備事業に対する助成」を追加

水産業の振興

04 水産都市八戸の再興

- 八戸水産アカデミーの開催
- ・担い手確保等をテーマとした講演会の開催
- ・魚市場の今後のあり方に関する部会の設立
- 第3魚市場 A棟の閉鎖型荷さばき施設への転用
- 八戸の鮮魚ブランディングプロジェクト
- ・八戸の鮮魚に新しい価値を創出、ブランド化を目指す

05 つくり育てる専門部会の設置

- 「つくり育てる漁業」に焦点を当てた取組の推進
- ・養殖をテーマとした講演会の開催
- ・養殖事業の先進地視察の実施

06 产学金官の連携による養殖事業の実施

- 当市漁業の成長産業化を推進するための養殖モデル事業の実施
- ・国の交付金を活用した民間企業と市、金融機関、教育機関等が連携した陸上養殖事業を実施
- ・養殖事業に取り組む漁業者への補助金を整備

食のまち・八戸の推進

07 「食のまち・八戸」

- 今年度策定した『「ハマる、ハチノヘ。」観光振興プラン』の柱の一つに「食のまち・八戸」を掲げ推進

- ・県外への八戸の「食」のPR
⇒はちのへフェア in 羽田空港、はちのへフェア in 赤レンガ等
⇒8base の活用、VISIT はちのへへの支援

08 八戸市魚菜小売市場リニューアルオープン

- 令和4年12月オープン
- ・来場者 50 万人達成(R6.12)
- ・陸奥湊駅前通り地区のエリアとしての一体的なまちづくりを官民共同で推進

09 フームステイ事業の実施

- 関係自治体との連携による農業観光振興を図る
- ・八戸圏域内での農業体験ホームステイを推進
- ・修学旅行生の農業体験を受入れ
⇒「まちの魅力創生ネットワーク会議からの提言」により事業化

企業進出の促進

10 国内外へのPRの促進

- 国内外へのポートセールス・セミナーの実施
- ・トップセールスの実施
⇒国内外ポートセミナー 参加者779名(R5. R6合計)
⇒八戸セミナーin 東京、名古屋 参加者約 1,000 名(R4～R6計)

11 八戸北インター第2工業団地等のインフラ整備

- 令和6年6月分譲受付開始
- ・新たな企業進出の受け皿整備
- ・用地取得、設備投資等のための補助制度による企業誘致の促進
- 地域経済の発展・防災力強化・物流拠点化の促進
- ・白銀市川環状線整備促進や三陸沿岸道の利活用促進 など

12 Hachinohe X-Tech innovation 事業

- 地域課題のデジタル技術による解決を通じた IT 企業の立地促進
- IT 技術を持つ企業が地域課題解決に取り組む仕組みを構築
⇒市長室ダイアログでの提案事業

起業・創業支援

13 はちのへ創業・事業承継サポートセンター

- 創業及び事業承継の支援拠点として開設
- ・創業件数152件(R4～R6)
- ・各種創業セミナーの開催

14 起業支援プラットフォーム(8サポ meets)

- 起業家同士のコミュニティの形成による、起業家ネットワークを構築
- ・学生企業チャレンジコミュニティ(若者)
- ・スマールビジネスコミュニティ（女性）
- ・創業者ステップアップコミュニティ(創業間もない個人事業主)

15 新規会社設立登録免許税等補助金の新設

- 市内で新規に会社設立を行う事業者に対する補助の新設
- ・交付実績
 - R4 4件(株式会社3件、合同会社1件)
 - R5 10件(株式会社9件、合同会社1件)
 - R6 16件(株式会社10件、合同会社6件)

物流問題対策

16 貿易・物流対策グループの新設

- 令和6年 4月新設
- ・物流機能の維持と貿易振興を一体的に管理する部署を設置し、物流等に関するより効果的な取組を推進

※(株)日本農業が八戸港を利用した青森県産リンゴの船舶輸送を開始

17 物流問題に関する関係者間連携

- 八戸地域物流問題懇談会の開催
 - ・産学官金がそれぞれの立場の現状・課題を共有し、課題に対する方策を検討
- 物流問題講演会の開催
- 物流企业見学バスツアーの実施

18 物流事業者等への支援

- 持続的な物流の実現を目指し、物価高騰等に影響を受ける事業者を支援
 - ・倉庫業、貨物自動車の運行等に対する補助
 - ・モーダルコンビネーションの推進

03 持続可能な社会の実現

計画の策定

01 第3次八戸市環境基本計画

- 令和5年9月策定
 - ・「自然共生社会づくり」「快適環境社会づくり」「脱炭素・循環型社会づくり」「良好な環境を支え次世代へつなぐ人・仕組みづくり」の4つの基本目標の下、市、市民、事業者が連携した取組を推進

02 第2次八戸市地球温暖化対策実行計画

- 令和5年9月策定
 - ・2050年カーボンニュートラル実現を見据え、2030年度における温室効果ガス排出量の50%削減を目指す(2013年度比)【区域施策編】
 - ・区域施策編との整合性を図り、八戸市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)【通常うみねこプランV】を改訂
- ⇒2本の柱:「エネルギー使用量の削減」「エネルギーの脱炭素化」

03 八戸市デジタル推進計画

●令和5年2月策定

・「すみよいデジタル」「はたらくデジタル」「うみだすデジタル」の3つの基本目標のための取組を推進

・「書かないワンストップ窓口」「窓口業務改革」の推進

グリーン社会に向けた取り組み

04 SDGs に関する情報発信・意識啓発

●出前講座、セミナー等により市民の意識醸成を図る

・SDGsセミナーの開催

⇒受講者数 R4:70人、R5:300人、R6:142人

・市職員による SDGs公認ファシリテーター資格の取得

05 地球温暖化対策への取組

●環境出前講座の実施

●市民・企業向け省エネルギーセミナーの開催

●太陽光発電設備等の省エネ設備の導入支援

06 次世代エネルギー導入推進室の新設

●令和7年4月設置

・産業都市八戸の発展と2050カーボンニュートラルの両立のため、次世代エネルギーの導入を目指し、中長期的なビジョンを策定中 DX の推進

DX の推進

07 デジタル体制の強化

●デジタル推進室の新設

●市公共施設のキャッシュレス決済導入による利便性の向上

●八戸市統合スマートフォン用アプリの導入

08 市役所における窓口業務改革

- 令和6年11月「書かない・待たない・行かない窓口」サービス開始
- 市役所における申請手続の約40%をデジタル化
- 年間約16,600時間・30,000千円のコスト削減(市試算)

09 公共施設及び中心街のWi-Fi整備

- 三日町・十三日町・六日町・十六日町の屋外空間に全14か所のアクセスポイントを整備
- ・市民の利便性向上
- ・観光客誘致
- ・災害時の情報収集

04 スポーツ&文化の推進

スポーツの振興

01 新八戸市体育館の整備

- 「する」「みる」「ささえる」スポーツ活動を支える振興拠点として整備
- ・非日常時はコンベンション等の多目的に使用可能な機能を整備
- ・PFI手法を用いた民間資金の活用

02 八戸市スポーツによる人・健康・まちづくり推進協議会

- 八戸市スポーツ推進計画等の外部評価を実施
- ・令和6年3月 時代の変化に合わせ「八戸市スポーツ推進計画」改定
- ・令和7年2月 八戸市体育館の整備に関する基本方針の策定

03 スピードスケート国際大会の誘致

- シニア、ジュニア含む3つのスピードスケート国際大会を誘致
- ・23/24 ジュニアワールドカップスピードスケート競技大会
- ・2024 世界ジュニアスピードスケート選手権大会

- ・2025 四大陸スピードスケート選手権大会※日本初開催

中心街の活性化

04 十三日町・十六日町の再整備

- 複合的な民間再開発(マンション・商業・ホテル一体)に対する支援による魅力的な都市機能の充実
 - ・新たな人の活動や交流の創出
 - ・街路空間と一体となった公開空地の提供

05 八戸市中心街ストリートデザインビジョン策定

- 中心街のメインストリートをひと中心の空間へ再編しひとが主役のまちづくりを推進
 - ・実証実験「みちニワ」の実施
 - ・「まちの新たな使い方」をテーマにしたマチニワナイトマーケットの開催による新たなプレイヤーの発掘・育成

06 中心市街地の公共施設間連携

- 中心市街地に立地する文化施設の連携による交流人口増加を促進
 - ・ex)美術館×はっち×更上閣
 - 3施設を会場に、キッチンカーや飲食屋台と音楽ライブを楽しむ屋外イベント「ヨルニワ」の開催

観光振興

07 「ハマる、ハチノヘ。」観光振興プラン

- 施策の中で優先的に取り組む 3 本柱
 - ①食のまち八戸の推進
 - ・「ここでしか味わえない食体験」による満足度向上と地産地消の推進
 - ② 三陸復興国立公園「種差海岸」の魅力向上
 - ・自然の活用と守るべき価値の保存を両立
 - ③ インバウンド対応の充実

- ・スポーツ大会の合宿も含めた集客と受入れ環境の整備

08 旧柏崎小学校跡地への山車小屋整備

- 三社大祭山車制作展示施設の整備(R6.3)
 - ・地域コミュニティの拠点と祭りに触れる新たなまち歩きの拠点の融合
- デジタルスタンプラリー「ハチノヘウォーカブル」(R7.7)
 - ・「デジタル×まち歩き」で中心街の回遊性向上及び賑わいの創出

09 みちのく潮風トレイル全線開通5周年記念

- みちのく潮風トレイル全線開通 5 周年記念イベントの開催(R6.5)
 - ・400 名以上の参加者がゲストの王林さんらと共にトレイルを体験

05市民の暮らしを守る

災害や高齢社会への対応

01 危機管理と災害対策の強化

- 危機管理部の創設
 - ・危機管理と災害対策を一元的に所管するため危機管理部を創設
- 計画等の改定
 - ・津波避難計画の改定
 - ・八戸市初動体制マニュアルの改定
 - ・八戸市津波避難施設の整備等に関する基本方針作成

02 ICT ツールの活用

- 医療・介護を必要とする高齢者に ICT ツール(mell+community)を活用し、切れ目ない在宅医療と介護を提供するための連携体制を構築
 - ・ICT ツール登録事業者 322 件 登録利用者数 13,095 人(R7.3 時点)
 - ・八戸消防本部も利用し、適切な救命に活用(令和7年3月～)

03 介護人材の確保

- 市独自の訪問支援員(うみねこヘルパー)の創設
・70人(R7.3時点)が登録しており、訪問型サービス(掃除、洗濯、買物等)を実施
- 外国人材の活用を図るための研修や交流会の開催
- 外国人ヘルプデスクの設置

物価高騰対策

04 子育て世帯への支援

- 学校給食食材費高騰対策支援事業
- 八戸市次世代エール商品券事業
- 子ども食堂等物価高騰対策支援事業 など

05 事業者・団体等への支援

- 八戸市商業団体等販売促進支援事業補助金
- 八戸市貨物自動車運送事業者燃料高騰対策支援事業
- 路線バス運転手確保維持補助金
- 港湾物流効率化支援事業 など

06 福祉的配慮を必要とする方への支援

- 重度心身障がい者タクシー利用助成事業
- 重度心身障がい者自家用車燃料費利用助成事業
- 寝たきり高齢者等家族介護慰労金支給事業 など

06 子どもファーストの推進

子育て世帯への支援

01 子ども医療費・給食費の無償化

- 0歳から高校生等までの子ども医療費の完全無償化を実現

- 小・中学生の学校給食費の県交付金等を活用し、無償化を実現

02 子育て情報の発信力強化

- LINE やアプリ等の導入により妊娠期から子育て期に必要となる情報を手軽に取得できる環境を整備
 - ・はちすく通信 LINE の配信
 - ・子育てアプリ「はちも」の運用

03 幼保小の連携推進

- 入学時における園児・保護者の不安解消と円滑な接続を推進
 - ・入学予定保護者向けパンフレット「わくわくいっぱい いちねんせい」
 - ・幼保小の架け橋プログラムの作成

遊び・学びの環境整備

04 子どもの学びの場の充実

- 令和7年5月児童科学館プラネタリウムリニューアル
 - ・子ども達の科学する心を育む施設としてプラネタリウムの改修を実施
⇒投映できる恒星数 6,200 個→800 万個
- 博物館の展示リニューアルに着手

05 こどもの遊びの場の充実

- こどもの国大型複合遊具の整備
 - ・障がいの有無に関わらず全ての子どもが楽しく遊べるインクルーシブの考えを取り入れた大型遊具の整備

06 小中学校等の教育環境整備

- 小中学校及び児童館に冷房設備を設置し、子どもの安全・安心に過ごせる教育環境を整備

居場所づくり

07 子どもの声を市政に反映

- 小学生から高校生の児童生徒 100 名を「こどもモニター」として選任し、市の施策に関するアンケート調査等により、子どもの意見を市政に反映

08 子ども目線による情報発信

- 中高生が「こどもまちなか IT 部」の部員となり、自由な発想で子どものための HP や学び・体験の場などに関するマップづくりを行い、子ども自らが子ども目線による子ども向けの情報発信を行う

09 子ども食堂運営支援

- 子ども食堂実施団体との連携による子どもの居場所づくりを推進
- ・子ども食堂開始団体に対する補助制度創設
- ・食品関連事業者等と連携した運営団体に対する食材の無償支援制度の開始

07 多様な市民力を地域の活力に

移住・定住の促進

01 女性・若者に魅力あるまちづくりの推進

- 八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議の開催
- ・女性や若者の視点を市政に反映
- ・会議からの提言を受けこれまで49事業を事業化

02 情報発信力の強化

- 映像クリエイターを広報統計課内に配置し、動画による市の PR を強化
- 広報はちのへのフルカラー化
- 市公式 SNS の活用による情報発信

03 関係人口の創出

- 「はなのへ超帰省応援事業」の実施
 - ・八戸市出身者等が友人と一緒に帰省することで、地元への愛着や親しみの再醸成と関係人口の創出や八戸市のPRを図る

人手不足の解消

04 学生の地元への愛着醸成

- 各高等教育機関で単位取得が可能な八戸地域学を開講
- マチナカまるっと一日体験事業の実施
 - ・中心市街地の公共施設での職業体験による愛着醸成を促進

05 地元企業の認知度向上・知る機会の創出

- サンフェス HACHINOHE の開催
- 伴走型長期インターンシップの実施
 - ・人手不足等によりインターンの受入れが困難な企業と学生とを伴走支援型のサポートにより、地元就職、人材獲得の機会を創出
- 高校生による地元企業魅力発見体験事業(チャームエイト)の実施
 - ・高校生自らが地元企業の魅力について調査・情報発信

06 地元企業への支援

- 社内人材育成支援事業
- 外国人受入れセミナーの開催

高齢者の社会参加

07 生きがいと健康づくりの推進

- 三世代交流事業の実施
 - ・高齢者、児童、保護者の3世代間で昔遊び、餅つき会などの昔遊びを実施し、世代間交流を促しながら、社会的孤立感の解消や自立生活の助長を図る
- ⇒R6 年度:計23回開催、1,095 人参加

●ほっとサロンの実施

- ・24 地区の公民館において実施し、家に閉じこもりがちな高齢者の社会参加を促進
⇒R6年度:計 739 回開催、15,682 人参加

●ニュースポーツ講座・シニアいきいき講座の実施

08 鷗盟大学の運営

- 新しい知識や教養を身につけ、広く仲間づくりを行うことにより明るく豊かな生活を送ることを支援
- ・一般教養科目のほか「生活福祉課」「園芸課」を開設

08人に優しいまちづくり

地域の特色を活かす

01 地域の「らしさ」の創出

●地域の底力実践プロジェクトの実施

- ・地域の課題解決や活性化に取り組む地域を2カ年かけ支援を行い、地域の主体性

を促進

●市長との公民館サロンの実施

02 コンパクト&ネットワークのまちづくり

●空き家ポータルサイト(はちのへ空き家図鑑)の運営やネットワークの構築により、空家の利活用や流通促進を図る

- ・令和6年8月 はちのへ空き家解消ネットワーク設立

●バス運転手の確保

- ・民間のバス事業者に対する運転手の賃上げに係る補助金を交付

- ・市営バス運転手確保のため、採用試験合格者に対する免許取得に係る経費の貸付を助成

03 計画等の策定

●八戸圏域地域公共交通計画の策定

●八戸市立地適正化計画の改定

●八戸市無電柱化整備計画の策定

インフラの整備

04 新大橋の整備

●令和7年3月開通

- ・工法の見直し等により1年前倒しで事業完了
- ・地域住民の安全な交通と物流の効率化

05 ハナミズキ通り電線共同溝整備事業

●令和5年度事業完了

- ・無電柱化による景観の向上や災害時の電柱倒壊による障害解消
- ・歩道の段差解消による歩行者の円滑な通行

06 地域に身近な歩道整備

●市民にとって最も身近な歩道等の整備を促進し、人に優しいまちをつくる

- ・一番町矢沢線歩道整備事業
- ・新井田白銀線歩道整備事業

09 経営感覚を持った市政運営

効率的な行政運営と持続可能な財政運営

01 大規模な機構改革

●新しい八戸の未来を切り開くため、9つの改革を核とした組織体制の抜本的な見直しを実施

【新設】・危機管理部・商工労働まちづくり部・観光文化スポーツ部・こども健康部・市民環境

【再編】・総合政策部・総務部・水産事務所・福祉部

【役職】・専門監、推進監の創設

02 『変革への挑戦』と『未来への責任』

- 第8次八戸市行財政改革大綱策定(令和7年2月)
 - ◇柱1 - 組織運営の最適化と人材育成
 - ・組織力の向上 ・人材育成(能力向上)
 - ・スマートなワークスタイルの推進 ・リスク管理の徹底
 - ◇柱2 - 時代の変化に対応した効果的で効率的な行政運営
 - ・DX 推進等による市民サービスの質の向上 ・府内 BPR の推進
 - ・事務事業の総合的な見直しの推進 ・多様な主体との協働・連携
 - ◇柱3 - 経営感覚を持った持続可能な財政運営
 - ・健全な財政運営の推進 ・歳入の確保・強化 ・財産の適正管理と有効活用
- 行財政改革大綱アクションプログラムの策定
 - ・行財政改革大綱に示した3本柱と11の推進項目に基づく取組事項を示し、進行管理を行う

民間の経営感覚

03 公共施設の有効活用

- 八戸市公共施設見える化シートの公開
 - ・公共施設の維持管理コストを公開し、施設の有効利用と費用対効果の向上を推進
- 施設間及び公民間の連携推進
 - ・市民アンケート等の結果を基に施策を検討し、来館者数や施設利用件数が増加
- 大型 MICE の開催(全国都市問題会議、スケート国際大会、国スポ)

04 行政改革の推進

- 職員と市長の意見交換会(市長室ダイアログ)の実施
 - ・カエルプロジェクトや Hachinohe X-TechInnovation 事業を展開
- 職員エンゲージメント調査による職場改善

05 民間企業との交流促進

- 民間企業への職員の派遣
- 商工会議所との定期的な意見交換会「経済交流サロン」の実施